

「心身機能のエイジングに着目した高齢期の就労支援に関する研究」  
分担研究報告書

分担課題名 中高齢者の就労意向に関する調査：地域住民コホートより

研究分担者 西田 裕紀子<sup>1</sup>

研究協力者 久保田 彩<sup>1</sup>

研究代表者 大塚 礼<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 研究所 老化疫学研究部

【研究要旨】

わが国の高齢化率は上昇しており、高齢者が就労継続し、経済社会の担い手となることが期待されているが、一般地域住民が高齢期の就労についてどのような意向を持っているかに関する実証データは少ない。本研究では、地域在住中高齢者における就労意向やそれに関わる条件等について検討した。「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)」の第10次調査(実施中)に参加した55～96歳の336名を対象として、高齢期の就労意向に関する自記式調査票への回答を求めた。主な結果は以下のとおりである。(1)非就労者では、約8割が「今も将来的にも働きたくない」と回答している一方、就労者では、「高齢期も働くつもりである」と回答した者が約9割を占めた。(2)就労高齢者では、「働けるうちはいつまでも働きたい」という回答が多く、高齢期に就労を希望する理由として、金銭面、健康面に加えて、対人面の項目が選択されていた。(3)非就労だが就労意志がある高齢者における、就労していない主な理由として、自身や家族の健康の問題、家庭の事情、希望する就労時間や勤務日数に合う仕事が見つからないことが挙げられた。高齢期の就労を促進する方策を検討する際には、就労者の就労継続の意志を活かした取り組み、高齢期を迎える前からの継続的な健康づくりの支援を行うこと、高齢者自身の健康状態や家族の介護等の個々の状況に応じた働き方の選択肢を増やすことなどの様々な支援が求められる。

A. 背景と目的

わが国の総人口に占める高齢化率(65歳以上の割合)は2023年に29.1%となり、今後も上昇を続け、2035年には32.3%、3人に一人が高齢者となる社会が到来する。このような少子高齢社会では、高齢者が就労継続し、経済社会の担い手となることが期待されている。

高齢者の就労促進は政策面でも進められており、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の2021年改正では、70歳までの就労確保措置が努力義務化され、今後、高年齢まで

就労を継続する人が増加すると考えられる。

一方、高齢期の就労は、高齢者自身の生きがいや、精神的健康や高次生活機能と関連すること(有馬, 日本労務学会誌, 2021)、メンタルヘルスの維持や改善をもたらすこと(Chia et al., Int. J. Environ. Res. Public Health, 2021)等が報告されており、経済的利益を超えて、高齢者個人のwell-beingの向上に良い影響を与える可能性がある。

しかしながら、一般地域住民が高齢期の就労についてどのような意向を持っているかに関

する実証データは少ない。本研究では、地域住民から性・年代により層化無作為抽出された中高齢者を対象とする地域住民コホート調査より、中高齢者の高齢期における就労意向やそれに関わる条件等について明らかにする。

## B. 方法

対象:「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断研究(NILS-LSA)※」の第10次調査(2023-実施中)の対象者336名(平均年齢69.2±9.8歳(Range = 55-96)、男性45%、既婚者78%、独居13%)。

※NILS-LSAは国立長寿医療研究センター周辺(愛知県大府市・東浦町)に居住する地域住民からの性・年代別層化無作為抽出者(観察開始時40~79歳)を対象とし、1997年以降、老化関連変数を経時的に収集している。2023年からは第10次調査を実施しており、本報告ではその中間データを用いた。

変数:自記式調査票を用いて、下記の項目について回答を求めた(就労に関する具体的な項目についてはFigure1参照)。

(1)現在の就労状況

(2)非就労者:

①就労意志

②(就労意思がある者に)就労していない理由

(3)就労者:

①職種

②就業時間

③雇用条件、仕事内容等の満足度

④高齢期(65歳以上)の就労希望、希望退職年齢、希望する就業時間

⑤(高齢期の就労希望者に)就労を希望する理由

(4)基本特性:

年齢、性、婚姻状況、世帯構成

## C. 結果

(1)現在の就労状況

対象者の現在の就労状況をTable1に示す。全体では53%が就労しており、性・年代別では、男性の55%、女性の52%、中年者の87%、高齢者の36%が就労していた。

(2)非就労者の就労意志等

非就労者の現在および今後の就労意志をTable2に示す。非就労者全体の82%が「今も、将来的にも働きたくないと思っている」と回答しており、性別、年代別の回答についても同様の傾向であった。一方、全体の18%、高齢者に限定した場合でも14%が、「将来的には働きたいと思っている」、または、「今、働きたいと思っている」と回答した。就労意志があるが現在非就労である者を対象に、非就労である理由について尋ねたところ(複数選択可・Table3)、全体では「希望する就労時間、勤務日数の仕事が見つからないから(43%)」、「家族の健康上の理由(介護など)のため(36%)」、「自身の健康上の理由のため(25%)」、「家族の事情(家事、子・孫育てなど)のため(25%)」が多く選択されており、高齢者では「自身の健康上の理由のため(35%)」と「家族の健康上の理由(介護など)のため(35%)」が最も多く、次いで、「希望する就労時間、勤務日数の仕事が見つからないから(25%)」が多く選択された。また、「その他」を選択した者はいずれも高齢者で、具体的な理由として、「年齢のため」と「高齢で就職先がない」が挙げられた。さらに、現在非就労である理由について、対象者ごとに整理したところ、雇用条件のみが理由の者(①~⑤の中のみから選択)が6名、自身の健康上の理由のみの者(⑧のみを選択)が4名、家族の健康または事情のみの者(⑨・⑩のみから選択)が4名であり、自身の健康上の問題と家族の事情の両方を選んだ者は2名、家族の事情と雇用条件の両方を選んだ者が3名であり、その他の者(①⑦⑩のいずれかを選択)が4名であった。

(3)就労者の職種・就業時間・満足度

就労者の主たる職業と週平均就業時間を

Table4 に示す。全体では、技能的・労務的職業従事者(28%)、専門的・技術的職業従事者(22%)、事務的職業従事者(15%)が多かった。性別では、男性では、技能的・労務的職業従事者(35%)、管理的職業従事者(22%)、専門的・技術的職業従事者(17%)、女性では専門的・技術的職業従事者(26%)、サービス・販売職業従事者(22%)、技能的・労務的職業従事者(22%)が多かった。年代別では、中年者では、技能的・労務的職業従事者(22%)、事務的職業従事者(21%)、専門的・技術的職業従事者(20%)が多かったのに対して、高齢者では、技能的・労務的職業従事者(37%)が最も多く、専門的・技術的職業従事者(24%)、次いで農林漁業以外の自営業(13%)の割合が高かった。また、週平均就業時間は全体で 29.82 時間であり、女性(25 時間)よりも男性(35 時間)で長く、高齢者(24 時間)よりも中年者(34 時間)で長かった。

Table5 に現在の雇用条件、仕事内容等の満足度の平均値と標準偏差を示す。就業形態の満足度の平均値が最も高く(3.97)、次いで就業時間・勤務日数の満足度(3.79)、仕事内容の満足度(3.68)であり、賃金水準の満足度(3.26)が最も低かった。これらの傾向は、性別、年代別においても類似していたが、全体と比較して、高齢者では仕事内容、就業時間・勤務日数の満足度が少し高値を示していた。

#### (4) 就労者の就労意志等

就労者の高齢期(高齢者は今後)における就労意志、および、就労意志がある場合の希望引退年齢、希望週平均就業時間を Table6 に示す。現在就労している者で、高齢期に「働かないつもりである」と答えた者は全体の 9% であり、「〇歳まで(一定の年齢まで)働くつもりである」、「働けるうちはいつまでも働くつもりである」と回答した就労意志のある者が 91% を占めた。就労意志がある者の割合は、性別では、男性で 87%、女性で 89%、年代別では中年者で 83%、高齢者では 99% であった。高齢者

では、「働けるうちはいつまでも働くつもりである」と回答する者が最も多かった(55%)。

「〇歳まで働くつもりである」と回答した者の希望引退年齢の平均は、全体では 70 歳、男性 71 歳、女性 69 歳、中年者 67 歳、高齢者 73 歳で、高齢就労者は希望引退年齢が高かった。また、就労意志がある者(「〇歳まで(一定の年齢まで)働くつもりである」、「働けるうちはいつまでも働くつもりである」を選択した者)の希望週平均就業時間は、全体で 22 時間であり、男性(26 時間)の方が女性(19 時間)より長く、中年者(24 時間)の方が高齢者(21 時間)よりも長かった。

就労者かつ、高齢期における就労意志がある者の就労希望の理由(複数選択可)を Table 7 に示す。全体では、「自由に使えるお金が欲しいから(66%)」が最も多く、「健康のため(61%)」、「生活費を得たいから(60%)」の回答率が上位であった。性別では、男性は「健康のため(69%)」が最も多かったのに対して、女性は「自由に使えるお金が欲しいから(72%)」が最も多かった。年代別では、中年者は「自由に使えるお金が欲しいから(76%)」、「生活費を得たいから(72%)」、「健康のため(49%)」が多かったのに対して、高齢者では「健康のため(74%)」、「仕事を通じて、友人、仲間を得ることができるから(62%)」、「自由に使えるお金が欲しいから(54%)」の回答率が上位であった。

#### D. 考察および結論

本研究では、地域住民コホート調査より、中高齢者の就労意向やそれに関わる条件等について検討した。

まず、本研究における高齢者の就業率(36%)は総務省が報告した 2022 年の高齢者の就業率(25%)と比較してやや高かった。

非就労者では、約 8 割が「今も将来的にも働きたくない」と回答しているのに対して、就労者では、「高齢期(高齢者では今後)も働くつもり

である」と回答した者が約9割を占めた。高齢期の就労を促進する方策を検討する上で、就労者の就労継続の意志を活かすことは重要である。

就労者で就労継続を希望する者の高齢期における希望週平均就業時間は22時間、週3日程度であり、比較的短時間の勤務を希望する傾向が認められた。現在の週平均就業時間が平均30時間弱であることを考えると、高齢期に就労する意思がある場合でも、その働き方は65歳以前と異なる選択肢が必要になる場合もあると考える。

また、特に高齢就労者では、働けるうちはいつまでも働くつもりである、との回答が多く認められ、一定の年齢まで働くつもりであると回答した者の希望引退年齢も70歳代と高かった。高齢者の身体機能は近年向上している(Suzuki et al., Rejuvenation Res, 2021)ものの、高年齢層の労働災害発生率は、若年層に比べて高く(厚生労働省, 2020)、加齢に伴って心身機能の低下も生じやすくなる。就労意思がある者が、高齢になっても就労を継続することができるように、高齢期を迎える前からの継続的な健康づくりの支援を行うことも重要である。

高齢期に就労を希望する理由としては、中年者においても上位に選択された金銭面、健康面に加えて、対人面(仕事を通じて、友人、仲間を得ることができる)の選択率が高いことが特徴であった。他者とのコミュニケーションに対する動機づけや次世代への伝達に対する動機づけが高い高齢者は、定年後も就労を継続する可能性が高い(Zhan et al., J Appl Psychol, 2015)。また、再雇用高齢労働者を対象とした研究では、就労に対する動機づけの内容により、生きがい感や職務満足度が異なることが報告されている(堀口・御手洗, 実験社会心理学研究, 2020)。今後、就労継続という観点だけでなく、より良く就労を継続するという観点から、動機づけのあり方を検討するこ

とも必要だと考えられる。

一方、非就労の高齢者の中にも、「将来的に、あるいは今、働きたいと思っている」と回答した者が1割以上存在していた。就労意志があるにも関わらず就労していない理由として、雇用条件の中では、仕事の内容や賃金よりもむしろ希望する就労時間や勤務日数の仕事が見つからないことが多くあげられていた。また、中年者と比較して、高齢者は自身や家族の健康上の問題、家庭の事情が就労していない理由として多かった。さらに、そうした個人の事情と雇用条件の両方を非就労理由として選択する者も一定数存在した。がんや脳・心臓疾患の有病率は年齢と共に高くなるため、高齢労働者の増加より、そうした疾患の治療と就労の両立が課題となってくる(厚生労働省, 2024)。また、近年、夫婦共働き世帯の増加に伴って、孫育てをする高齢者が増加している(東京新聞, 2020.01.15)。本調査において一部の対象者に対し、聞き取りにて就労について確認した際、対象者から、「脳梗塞により車の運転を禁止されたため、仕事に行く手段がなくなり、働きたいが働けていない」という話や、「孫が保育園に預けられるようになったら働くことができるかもしれない」といった話が語られた。健康上の問題や家庭の事情がある者の中でも、その状況に応じた働き方の選択肢があれば就労可能になることは十分考えられる。高齢期の就労促進のためには、自身の健康状態や家族の介護等の状況に応じた働き方の選択肢が設けられることが重要だと考えられる。

なお、非就労であるが、現在または将来的には働きたい高齢者の就労していない理由として「年齢のため」「高齢で就職先が見つからないから」という回答が見られた。本調査(NILS-LSA 第10次調査)の項目検討のために50-80代の男女600名を対象として実施したweb調査においても、同様の質問に対する、「老齢のため」、「高齢者だから」、「年齢的に自信がない」といった回答が確認されている

(未公表)。「年齢のため」という回答は多様な意味を含むと考えられるが、朝日新聞社の調査でも、定年後に働かない(働くつもりがない)理由として最も多かったのは、「定年後も働くという発想・知識がない」(37.0%)であり(<https://www.asahi.com/relife/article/14622345>)、「歳を取れば仕事をしない」という考え方が高齢者自身や社会の中に存在していると考えられる。「高齢になっても就労できる」という社会全体の意識の醸成や、実際に高齢期に就労するロールモデルが増えることは、非就労者の8割を超える、就労を希望しない者の意識変容へのアプローチにもなるだろう。

以上をまとめると、今回の地域住民コホート調査では、非就労者と就労者において、高齢期における就労意向は大きく異なり、就労者では高齢期の就労希望の割合は高いが、非就労者では低かった(ただし、就労していないが今後働きたいと考える者もいる)。健康状態は、就労を阻害する理由にも、就労希望の理由にもなり得る、重要な要因である。その他、家族の健康の問題や、希望する就労時間、勤務日数の仕事が見つからないこと、高齢者は就労することが難しいという意識も、高齢期の就労の妨げになる可能性があり、**高齢者自身への支援に限らず、家族や雇用する側、社会全体への多様な働きかけが求められる。**

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1) Sala G, [Nishita Y](#), Tange C, Tomida M, Gondo Y, Shimokata H, Otsuka R: No appreciable effect of education on aging-associated declines in cognition: A 20-year follow-up study. *Psychol Sci*, 34(5): 527-536, 2023.

2) Sala G, [Nishita Y](#), Tange C, Zhang S, Ando F, Shimokata H, Otsuka R, Arai H:

Differential longitudinal associations between domains of cognitive function and physical function: A 20-year follow-up study. *J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci*, 79(1): gbad156(6pages), 2024.

3) [Nishita Y](#), Sala G, Shinohara M, Tange C, Ando F, Shimokata H, Sato N, Otsuka R: Effects of APOEε4 genotype on age-associated change in cognitive functions among Japanese middle-aged and older adults: A 20-year follow-up study. *Exp Gerontol*, 171: 112036 (7pages), 2023.

4) Chu WM, [Nishita Y](#), Tange C, Zhang S, Furuya K, Shimokata H, Otsuka R, Lee MC, Arai H: Association of a lesser number of teeth with more risk of developing depressive symptoms among middle-aged and older adults in Japan: A 20-year population-based cohort study. *J Psychosom Res*, 174: 111498 (6pages), 2023.

5) Chu WM, [Nishita Y](#), Tange C, Zhang S, Furuya K, Shimokata H, Lee MC, Arai H, Otsuka R: Effects of cigarette smoking and secondhand smoke exposure on physical frailty development among community-dwelling older adults in Japan: Evidence from a 10-year population-based cohort study. *Geriatr Gerontol Int*, 24(S1): 142-149, 2024.

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的所有権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

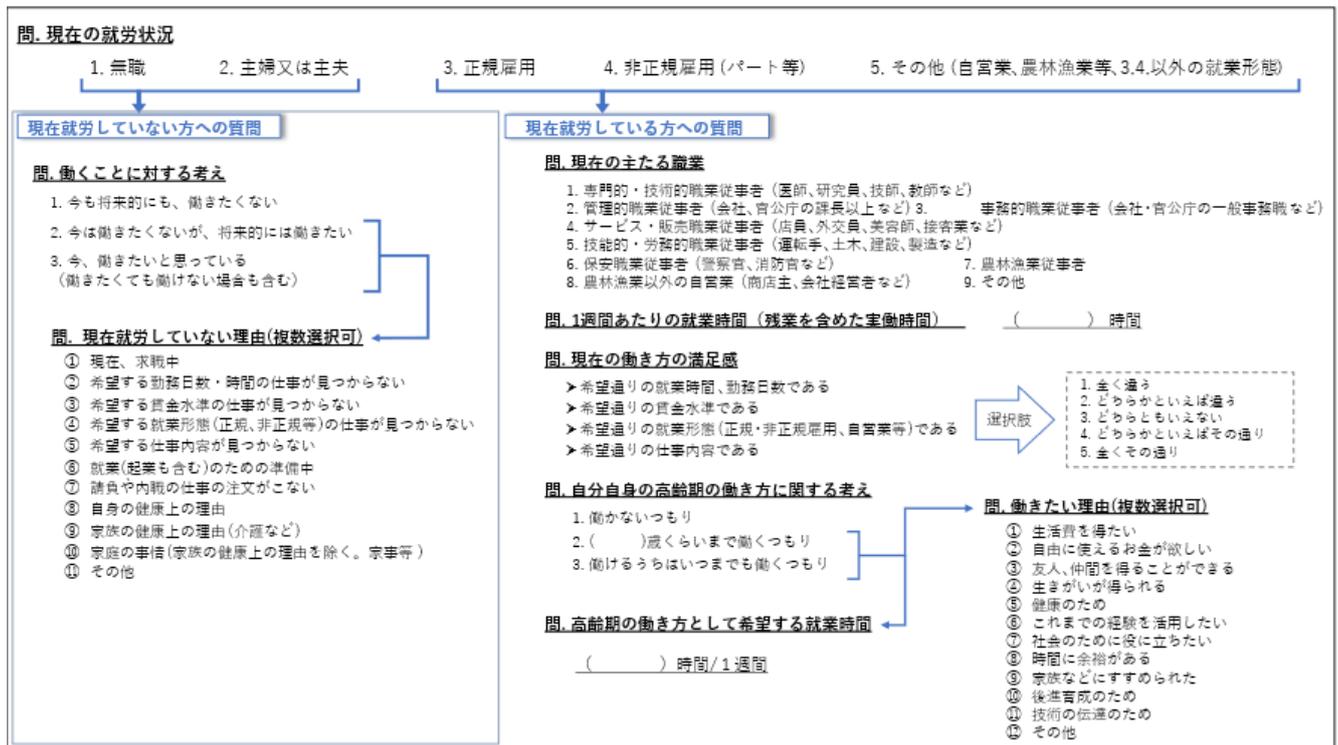


Figure1 就労に関する項目

Table1 【全体】性・中高年別の対象者の就労状況

	全体		男性		女性		中年期		高齢期	
	N	(%)								
1. 無職	100	(30)	66	(44)	34	(18)	4	(3)	96	(45)
2. 主婦又は主夫	55	(16)	1	(1)	54	(29)	12	(10)	43	(20)
3. 正規雇用(正社員など)	52	(15)	39	(26)	13	(7)	47	(39)	5	(2)
4. 非正規雇用(パート、アルバイト、契約社員、派遣社員など)	108	(32)	33	(22)	75	(40)	51	(42)	57	(27)
5. その他(自営業、農林漁業、3.4.以外の就業形態の方)	21	(6)	11	(7)	10	(5)	7	(6)	14	(7)
合計(%)	336	(100)	150	(100)	186	(100)	121	(100)	215	(100)

Table2 【非就労者】現在、および、今後の就労意志(性別、中高年別)

	全体		男性		女性		中年期		高齢期	
	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)
1. 今も、将来的にも、働きたくないと思っている	127	(82)	55	(82)	72	(82)	8	(82)	119	(86)
2. 今は働きたくないが、将来的には働きたいと思っている	5	(3)	3	(5)	2	(2)	3	(5)	2	(1)
3. 今、働きたいと思っている(働きたくても働けない、という場合も含む)	23	(15)	9	(13)	14	(15)	5	(13)	18	(13)
合計(%)	155	(100)	67	(100)	88	(100)	16	(100)	139	(100)

Table3 【非就労者かつ今後の就労意志がある者】現在非就労である理由

	全体		男性		女性		中年期		高齢期	
	(N=28)		(N=12)		(N=16)		(N=8)		(N=20)	
	N	% <sup>注)</sup>	N	% <sup>注)</sup>	N	% <sup>注)</sup>	N	% <sup>注)</sup>	N	% <sup>注)</sup>
1. 現在、求職中であるから	1	(4)	1	(8)	0	(0)	1	(13)	0	(0)
2. 希望する就労時間、勤務日数の仕事が見つからないから	10	(43)	6	(50)	4	(25)	5	(63)	5	(25)
3. 希望する賃金水準の仕事が見つからないから	2	(7)	1	(8)	1	(6)	2	(25)	0	(0)
4. 希望する就業形態（正規雇用、非正規雇用、自営業など）の仕事が見つからないから	4	(18)	3	(25)	1	(6)	2	(25)	2	(10)
5. 希望する仕事内容（営業、事務、サービスなど）が見つからないから	5	(21)	5	(42)	0	(0)	1	(13)	4	(20)
6. 就業（起業・開業も含む）のための準備中であるから	1	(4)	1	(8)	0	(0)	0	(0)	1	(5)
7. 請負や内職の仕事の注文がこなかったから	1	(4)	0	(0)	1	(6)	0	(0)	1	(5)
8. あなた自身の健康上の理由のため	7	(25)	2	(17)	5	(31)	0	(0)	7	(35)
9. 家族の健康上の理由（介護など）のため	9	(36)	2	(17)	7	(44)	2	(25)	7	(35)
10. 家庭の事情（家族の健康上の理由を除く。家事、子・孫育てなど）のため	5	(25)	0	(0)	5	(31)	4	(50)	1	(5)
11. その他	2	(7)	1	(8)	1	(6)	0	(0)	2	(10)

<sup>注)</sup> 複数選択のため、合計人数に対して該当選択肢を選択した者の割合を示す。

Table4 【就労者】主たる職業と週平均就業時間

	全体	男性	女性	中年期	高齢期
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)
1. 専門的・技術的職業従事者（医師・弁護士・ 研究員・技師・教師・芸術家・マスコミ関係 など）	39 (22)	14 (17)	25 (26)	21 (20)	18 (24)
2. 管理的職業従事者（会社・官公庁の課長以 上、駅長、校長など）	18 (10)	18 (22)	0 (0)	16 (15)	2 (2)
3. 事務的職業従事者（会社・官公庁の一般事 務職、銀行など）	27 (15)	9 (11)	18 (18)	22 (21)	5 (7)
4. サービス・販売職業従事者（店員、外交 員、美容師、接客業など）	25 (14)	3 (4)	22 (22)	17 (16)	8 (11)
5. 技能的・労務的職業従事者（運転手、土 木、建設、製造、加工、修理、印刷など）	51 (28)	29 (35)	22 (22)	23 (22)	28 (37)
6. 保安職業従事者（警察官・消防官、自衛官 など）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
7. 農林漁業従事者	5 (3)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	5 (7)
8. 農林漁業以外の自営業（商店主、会社経営 者など自営であるものすべてを含む）	16 (9)	8 (10)	8 (8)	8 (6)	10 (13)
合計(%)	181(100)	83(100)	98(100)	107(100)	76(100)
週平均就業時間	29.82	35.17	25.29	34.28	23.66
(SD)	(14.74)	(14.98)	(12.97)	(14.09)	(13.40)

Table5 【就労者】現在の雇用条件、仕事内容等の満足度(性別、中高年別)

	全体	男性	女性	中年期	高齢期
	(N=181)	(N=83)	(N=98)	(N=107)	(N=76)
	M (SD)				
就業時間・勤務日数の満足度	3.79 (0.99)	3.80 (0.95)	3.78 (1.03)	3.73 (1.10)	3.87 (0.81)
賃金水準の満足度	3.26 (1.13)	3.16 (1.11)	3.35 (1.15)	3.29 (1.14)	3.23 (1.12)
就業形態の満足度	3.97 (0.97)	4.00 (0.86)	3.97 (1.05)	4.08 (0.99)	3.83 (0.92)
仕事内容の満足度	3.68 (1.02)	3.68 (0.91)	3.68 (1.11)	3.65 (1.04)	3.73 (1.00)

Table6 【就労者】高齢期の働き方の希望と希望引退年齢、希望就業時間(性別、中高年別)

	全体		男性		女性		中年期		高齢期	
	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)	N	(%)
1. 働かないつもりである	22	(12)	11	(13)	11	(11)	21	(20)	1	(1)
2. 〇歳くらいまで働くつもりである	67	(38)	34	(42)	33	(34)	34	(33)	33	(44)
3. 働けるうちはいつまでも働くつもりである	90	(50)	37	(45)	53	(55)	49	(47)	41	(55)
1~3の合計	179	(100)	82	(100)	97	(100)	104	(100)	75	(100)
(2を選択した者)										
希望する引退年齢の平均(SD)	70.21	(4.94)	71.21	(5.10)	69.18	(4.62)	67.03	(3.41)	73.48	(4.07)
(2または3を選択した者)										
希望する週平均就業時間(SD)	22.60	(10.28)	26.77	(10.51)	19.24	(8.80)	24.02	(10.26)	20.96	(10.12)

Table7 【就労者かつ今後の就労意志がある者】高齢期の就労希望の理由(性別、中高年別)

	全体		男性		女性		中年期		高齢期	
	(N=157)		(N=71)		(N=86)		(N=83)		(N=74)	
	N	(%) <sup>注)</sup>	N	(%) <sup>注)</sup>	N	(%) <sup>注)</sup>	N	(%) <sup>注)</sup>	N	(%) <sup>注)</sup>
1. 生活費を得たいから	94	(60)	39	(55)	55	(64)	60	(72)	34	(46)
2. 自由に使えるお金が欲しいから	103	(66)	41	(58)	62	(72)	63	(76)	40	(54)
3. 仕事を通じて、友人、仲間を得ることができるから	82	(52)	37	(52)	45	(52)	36	(43)	46	(62)
4. 生きがいが得られるから	59	(38)	25	(35)	34	(40)	32	(39)	27	(36)
5. 健康のため	96	(61)	49	(69)	47	(55)	41	(49)	55	(74)
6. これまでの経験を活用したいから	54	(34)	27	(38)	27	(31)	25	(30)	29	(39)
7. 社会のために役に立ちたいから	49	(31)	25	(35)	24	(28)	24	(29)	25	(34)
8. 時間に余裕があるから	54	(34)	23	(32)	31	(36)	22	(27)	32	(43)
9. 家族などにすすめられたから	8	(5)	5	(7)	3	(3)	5	(6)	3	(4)
10. 後進育成のため	13	(8)	9	(13)	4	(5)	4	(5)	9	(12)
11. 技術の伝達のため	12	(8)	10	(14)	2	(2)	4	(5)	8	(11)
12. その他	3	(2)	0	(0)	3	(3)	2	(2)	1	(1)

<sup>注)</sup> 複数選択のため、合計人数に対して該当選択肢を選択した者の割合を示す。